〈研究ノート〉

鳥取市立保育所における童謡に関する質問紙調査

村上沙樹・鈴木慎一朗

Survey of Children’s Song at Tottori Municipal Day Nursery

MURAKAMI Saki, SUZUKI Shinichiro

キーワード：童謡，保育所，質問紙調査，鳥取
Key Words：Children’s Song, Day Nursery, Survey, Tottori

はじめに

本稿の目的は，鳥取市立保育所における大正期の童謡の実践の状況を質問紙調査により明らかにすることである。服部は「世の中に童謡が流れなくなって久しい。（中略）幼稚園や保育園の先生もあまり日本の名作童謡を教えようとしない」と指摘する[1]。では，童謡・唱歌とおもちゃのミュージアムである「わらべ館」もあり，唱歌・童謡のふるさととされる鳥取市の現状はどうであろうか。

研究の方法としては，第一に大正期の童謡について概観する。第二に鳥取市立保育所を対象に質問紙調査を実施し，童謡の実践の状況ならびに保育士の童謡に対する意識を明らかにする。

１．大正期の童謡の概観

「童謡」について，『音楽大辞典』では次のように定義される[2]。

> 明治期から大正初期にかけては，子どもの歌の総称として童謡の語が用いられていたこともあったが，あまり一般的ではなくむしろ唱歌の語の方が普及していた。ところが，大正期に童謡運動が起こってから，学校教育の教材用の唱歌とは別に，専門家が子どもに歌わせる目的で作った歌を指すようになった。これを創作童謡と言い，わらべ歌を伝承童謡または自然童謡といって区別することもある。

これを受けて，本稿での「大正期の童謡」とは大正期の童謡運動によって生み出された子どもの歌を指す。

以下，大正期の童謡作品を一覧にする。ここでは，大正期に活躍した作曲家７名の童謡を『日本童謡全集』からリストアップし，楽曲分析を行った[3]。文化庁の「親子で歌いつごう日本の歌百選」に該当する曲名については，波線を付けた[4]。調が日本の音階の曲には「日本」と表記している。なお，調査した結果，不明だった事項は空欄にしている。

（１）中山晋平　1887 年（明治 20）年～1952（昭和 27）年

表１は，中山晋平作曲の童謡を一覧にしたものである[5]。

表１　中山晋平作曲の童謡

曲名	年	作詞者	備考	調	拍子	音域
赤とんぼ		野口雨情		F	4/4	c^1 - c^2
あがり目さがり目	1926（大正 15）	水谷まさる		F	2/4	c^1 - d^2
あの町この町	1922（大正 11）	野口雨情	『コドモノクニ』	d	2/4	c^1 - e^2
あめふり	1925（大正 11）	北原白秋	『コドモノクニ』	C	2/4	c^1 - c^2
雨降りお月さん	1925（大正 14）	野口雨情	『コドモノクニ』 『童謡小曲集』第九週	C	3/4	c^1- c^2
兎のダンス	1924（大正 13）	野口雨情	『コドモノクニ』	C	2/4	c^1 - e^2
おみやげ三つ	1931（昭和 6）	西條八十	『コドモノクニ』	F	2/4	c^1 - d^2
蛙の夜まわり	1930（昭和 5）	野口雨情		G	4/4	d^1 - e^2
肩たたき	1923（大正 12）	西條八十	『幼年の友』	Es	2/4	H - e^2
キューピーちゃん	1930（昭和 5）	野口雨情	『コドモノクニ』	G	2/4	H - e^2
げんげ草		北原白秋		c	4/4	c^1 - e^2
黄金虫	1923（大正 12）	野口雨情		d	2/4	C-d^2
木の葉お船	1924（大正 13）	野口雨情	『コドモノクニ』	C	2/4	c^1 - e^2
こんこん子狐	1924（大正 13）	浜田広介	『幼年の友』	B	4/4	H - f^2
里ごころ	1922（大正 11）	北原白秋		c	4/4	c^1 - e^2
しゃぼん玉	1923(大正 12)	野口雨情		D	2/4	G-d^2
証城寺の狸囃子	1924（大正 13）	野口雨情	『金の星』	C	2/4	c^1 - e^2
雀おどり	1920（大正 9）	北原白秋		C	2/4	c^1 - e^2
砂山	1922（大正 11）	北原白秋	『小学女性』	e	4/4	H-d^2
背くらべ	1919（大正 8）	海野厚	白眉出版社	C	3/4	c^1 - d^2
たあんきぽうんき	1926（大正 15）	北原白秋		C	4/4	c^1 - e^2
狸の赤ちゃん		三苫やすし		F	4/4	c^1 - d
てるてる坊主	1922（大正 10）	浅原鏡村	『少女の友』	h	2/4	H-Cis
道中双六	1928（昭和 3）	水谷まさる		A	2/4	Cis-e^2
遠眼鏡		武井武雄		Es	2/4	H-e^2
南京ことば	1928（昭和 3）	野口雨情		E	4/4	H-e^2
兵隊ごっこ	1928（昭和 3）	酒井良夫	『コドモノクニ』	C	2/4	c^1 - e^2
鞠と殿様	1922（大正 11）	西條八十		e	2/4	H-e^2
露地の細道	1933（昭和 8）	海野厚		a	2/4	c^1 - e^2

これらは中山晋平が作曲した童謡だが，まず中山晋平作曲の童謡だけを見ても 29 曲にもなる。さらに，作詞者を見ると 29 曲中 11 曲（37.9%）が野口雨情（1882-1946）となっている。掲載された雑誌は『コドモノクニ』が他の雑誌に比べて多い傾向があると言える。調は 29 曲中 21 曲（72.4%）が長調の曲になっており，比較的明るい曲調のものが多く，子どもに親しみやすい曲が多いのではないかと推測する。拍子は，29 曲中 26 曲（89.7%）が 2 拍子や 4 拍子になっており，日本の子どもが慣れ親しんでおり歌い易いような曲が多いことが分かる。音域はおおむね 1 オクターブの間で作曲されているため，子どもが無理なく歌える音域を意識した曲が多いことが分かる。

（２）山田耕筰　1886（明治 19）年～1965（昭和 40）年

表２は，山田耕筰作曲の童謡を一覧にしたものである。

表２　山田耕筰作曲の童謡

曲名	年	作詞者	備考	調	拍子	音域
あわて床屋	1919（大正 8）	北原白秋	『赤い鳥』	C	4/4	c^1-e^2
かえろかえろと	1925（大正 14）	北原白秋	『童話』	E	4/4	d^1-e^2
カッコ鳥	1925（大正 14）	野口雨情	『コドモノクニ』	f	4/4	c^1-f^2
この道	1924（大正 13）	北原白秋	『赤い鳥』	E	3/4	H-e^2
酸模の咲く頃	1925（大正 14）	北原白秋	『赤い鳥』	D	2/4	A-d^2
なくした鉛筆	1921（大正 10）	西條八十	『まなびの友』	d	3/4	d^1-f^2
ペチカ	1923（大正 12）	北原白秋	『子供の村』（大正 14 年）	D	4/4	d^1-e^2
待ちぼうけ	1925（大正 14）	北原白秋	『子供の村』	D	4/4	e^1-e^2
山百合		川路柳虹		a	4/4	c^1-e^2

山田耕筰は 1922（大正 11）年に北原白秋と雑誌『詩と音楽』を創刊して詩と音楽との融合を図り[6]，童謡も作曲した。作詞者を見ると北原白秋の詩に曲をつけているものが多い傾向にある。掲載された雑誌は主に『赤い鳥』や『子供の村』である。調は 9 曲中 6 曲（66.7%）が長調である。拍子は《この道》《なくした鉛筆》以外は 2 拍子か 4 拍子で子どもが歌い易い拍子になっている。音域は《酸模の咲く頃》の最低音が A となっており，他の作曲家の童謡に比べても低く幼児期の子どもには歌うことが難しいと音だといえる。しかし，最低音の A は後半 1 音しか出てこず，他のところは幼児期の子どもにとっても歌い易い音域で作られている。

（３）本居長世　1885（明治 18）年～1945（昭和 20）年

表３は，本居長世作曲の童謡を一覧にしたものである。

表３　本居長世作曲の童謡

曲名	年	作詞者	備考	調	拍子	音域
青い眼の人形	1921（大正 10）	野口雨情	『金の船』	E, e, E	4/4	H-Cis^2
赤い靴	1921（大正 10）	野口雨情	『小学女生』	c	4/4	c^1-Es^2
お月さん	1922（大正 11）	西條八十	『童話』	c	4/4	B-Es^2
乙姫さん	1921（大正 10）	野口雨情	『金の船』	Es	4/4	B-Es^2
お山の大将	1920（大正 9）	西條八十	『赤い鳥』	C	4/4, 12/8, 4/4	c^1-e^2
温泉町から	1924（大正 13）	葛原しげる		E	4/4	H-Cis^2
汽車ぽっぽ	1927（昭和 2）	本居長与		E	4/4	H-Cis^2
九人の黒んぼ	1922（大正 11）	西條八十	『童話』	C	2/4	c^1-d^2
十五夜お月さん	1920（大正 9）	野口雨情	『金の船』	a	4/4	d^1-e^2
俵はごろごろ	1925（大正 14）	野口雨情	『金の星』	日本	4/4	c^1-d^2
釣鐘草	1922（大正 11）	野口雨情		c	4/4	c^1-d^2
でんでん虫	1922（大正 11）	野口雨情	『金の船』	F	4/4	c^1-c^2
七つの子	1921（大正 10）	野口雨情	『金の船』	G	4/4	H-e^2
残りの花火	1923（大正 12）	西條八十	『童話』	g	3/4	B-Es^2
めえめえ児山羊	1921（大正 10）	藤森秀夫	『童話』	D	4/4	d^1-d^2
呼子鳥	1921（大正 10）	野口雨情	『金の船』	F	4/4	c^1-e^2
四丁目の犬	1920（大正 9）	野口雨情	『金の船』	g	2/4	d^1-Es^2

本居長世は表 3 からも分かるように野口雨情とのコンビが特に多く，17 曲中 10 曲（58.8%）もある。雑誌

『金の船』（のち『金の星』）を中心に童謡を次々と作曲[7]している。調は《青い眼の人形》では曲の途中で長調から短調の同種調に転調する曲を作曲している。全体的に長調の曲が多い傾向にある。拍子は全体的には 2 拍子と 4 拍子が多い。《お山の大将》は拍子が曲の途中で変化するのと同時に速さも変化する。初めと終わりが Allegretto でやや軽快に，拍子が変わる中間部は Larghetto となりゆっくりになる。調が C だが曲はやや暗い印象である。音域はどの曲も幼児期の子どもでも無理なく歌える音域である。

（4）弘田龍太郎　1892（明治 25）年～1952（昭和 27）年

表４は，弘田龍太郎作曲の童謡を一覧にしたものである。

表４　弘田龍太郎作曲家の童謡

曲名	年	作詞者	備考	調	拍子	音域
赤い水筒	1951（昭和 26）	加藤省吾		D	2/4	d^1-d^2
あさね	1920（大正 9）	村山至大		E	3/4	e^1-Fis^2
あした	1920（大正 9）	清水かつら	『少女号』	F	2/4	c^1-c^2
雨	1918（大正 7）	北原白秋		c	2/4	c^1-c^2
うちの燕	1922（大正 11）	相馬御風		D	4/4	d^1-d^2
えんそく	1941（昭和 16）	林柳波	『新訂尋常小学唱歌』	G	2/4	d^1-d^2
おうち忘れて	1922（大正 11）	鹿島鳴秋		C	3/4	c^1-e^2
おち葉のおどり	1920（大正 9）	鹿島鳴秋		d	2/4	d^1-d^2
お山のお猿	1919（大正 8）	鹿島鳴秋		F	2/4	c^1-d^2
キューピーさん	1924（大正 13）	葛原しげる		D	2/4	d^1-d^2
金魚の昼寝	1919（大正 8）	鹿島鳴秋		F	2/4	c^1-d^2
靴が鳴る	1919（大正 8）	清水かつら	『少女号』	C	4/4	c^1-c^2
叱られて	1920（大正 9）	清水かつら		As	4/4	c^1-Es^2
雀のお宿	1921（大正 10）	北原白秋		D	4/4	d^1-d^2
雀の学校	1921（大正 10）	清水かつら	『少女号』	G	4/4	d^1-d^2
ねこやなぎ	1927（昭和 2）	三宅稲子		B	2/4	c^1-d^2
春よ来い	1923（大正 12）	相馬御風	『木かげ』	A	2/4	Cis^1-Cis^2

弘田龍太郎は本居長世に師事。作曲家として器楽曲から歌曲，歌劇まで幅広い作品を書いている。1919（大正 8）年外国留学に出発した成田為三に代わり，童話雑誌『赤い鳥』の作曲担当となってからは，童謡を中心に作曲。ヨナ抜き音階による日本的旋律を用いた作風で知られる[8]。作詞者は鹿島明秋や清水かつらとのコンビが多い。調は 17 曲中 15 曲（88.2%）が長調であった。拍子は《あさね》と《おうち忘れて》の 2 曲以外は 2 拍子か 4 拍子である。音域は，どの曲も最低音が低すぎず，幼児にも歌い易いものばかりである。しかし，《あさね》は最高音が Fis^2 であり他の作曲家の童謡と比べても最も高い音が入っている。また曲中に e^2 も頻繁に出てくるため，移調しなければ幼児が歌うには難しいと考えられる。

（5）草川信　1893（明治 26）年～1948（昭和 23）年

表５は，草川信の童謡を一覧にしたものである。

表５　草川信作曲の童謡

曲名	年	作詞者	備考	調	拍子	音域
風	1921（大正 9）	クリスティナ・ロセッティ（原詞） 西條八十（訳）	『赤い鳥童謡集（五）』	C	3/4	c^1-e^2
汽車ポッポ	1923（大正 12）	富原薫		F	2/4	c^1-d^2
どこかで春が		百田宗治	『小学男生』	C	4/4	H-d^2
春のうた		野口雨情		C	4/4	c^1-e^2
緑のそよ風		清水かつら		G	4/4	d^1-d^2
夕焼小焼	1923（大正 12）	中村雨紅	『あたらしい童謡（二）』	C	2/4	c^1-d^2
揺籠のうた	1922（大正 10）	北原白秋	『小学男生』	F	2/4	d^1-d^2

1921（大正 9）年に東京音楽学校の同期であった成田為三の紹介で雑誌『赤い鳥』に参加するようになってからは本格的に童謡に取り組んだ[9]。ここに挙げたものは曲によって作詞者は様々である。調は表 5 の 7 曲すべてが長調の曲になっている。拍子は 7 曲中《風》を除く 6 曲が 2 拍子か 4 拍子になっている。音域は最高音が e^2 で最低音が H となっており，最高音は少し高いが幼児でも歌える音域になっている。

（６）成田為三　1893（明治 26）年～1945（昭和 20）年

表６は，成田為三作曲の童謡を一覧にしたものである。

表６　成田為三作曲の童謡

曲名	年	作詞者	備考	調	拍子	音域
赤い鳥小鳥	1921（大正 9）	北原白秋	『赤い鳥』	F	2/4	f^1-d^2
かなりや	1919（大正 7）	西條八十	『赤い鳥』	B	2/4	B-e^2
月見草	1928（昭和 2）	菊池勇	『創作童謡』	F	2/4	f^1-d^2

成田為三は，赤坂小学校に勤務する傍ら，1918（大正 7）年に鈴木三重吉が創刊した童話雑誌『赤い鳥』を通じて数多くの童謡を発表するようになり，以後，弘田龍太郎，草川信らとともに大正童謡運動の中心となって活躍[10]。調は，表 6 の 3 曲すべてが長調である。拍子も 3 曲すべて 2 拍子になっている。音域は，《赤い鳥小鳥》と《月見草》は f^1-d^2 で音域が狭く幼児が歌い易い音域である。

（７）梁田貞　1885（明治 18）年～1959（昭和 34）年

表７は，梁田貞作曲の童謡を一覧にしたものである。

表７　梁田貞作曲の童謡

曲名	年	作詞者	備考	調	拍子	音域
あられ		葛原しげる		F	2/4	c^1-c^2
海		小松玉巌		D	2/4	d^1-d^2
お玉じゃくし	1912（大正元）	吉丸一昌	『幼年唱歌（一）』	D	2/4	d^1-d^2
木の葉	1912（大正元）	吉丸一昌	『幼年唱歌（二）』	D	2/4	d^1-d^2
どんぐりころころ	1922（大正 10）	青木存義	『かわいい唱歌』	C	2/4	c^1-c^2
羽衣		葛原しげる		G	4/4	H-g^2
噴水	1915（大正 4）	葛原しげる		F	2/4	c^1-d^2

梁田貞は，大正期に入ると童謡運動の一翼を担い，小松耕輔とその友人であった葛原しげるの共編で『大正幼年唱歌』『大正少年唱歌』（各 12 冊）を出版。生涯書いた曲の多くは葛原とのコンビによる[11]。表７からここに挙げた 7 曲中 3 曲（42.9%）は葛原が作詞した曲である。調は 7 曲中 6 曲が長調である。拍子は 7 曲中 6 曲（85.7%）が 2 拍子で後の 1 曲《羽衣》も幼児が歌い易い 4 拍子になっている。音域は《羽衣》以外はおおむね 1 オクターブの間で作られており幼児が無理なく歌える音域である。

以上，大正期に活躍した 7 人の作曲家の童謡を見てきたが，表１から７を見るだけでも大正期に非常に多くの曲が子どものために作られていることが分かる。さらに，音楽的特徴として長調の曲が比較的多く，拍子は 2 拍子や 4 拍子が多い傾向にある音域も中には最低音から最高音までの幅が広く幼児には歌うことが難しいとされる曲もあるが，どの曲の比較的幼児でも歌うことのできる音域で作られていることが分かる。音階は，日本や西洋の音階が使われており，音楽的にも西洋の文化が入ってきていることがうかがえる。そのためか，ピアノ伴奏が付いている曲も多い。

大正期の童謡は中には歌詞が，現代の子どもが歌うには向いていないと思われる曲も少ながらず存在する。しかし，すべてがそのような歌詞であるわけではない。子どもの歌い易い音域で，なじみのある 2 拍子や 4 拍子が多く使われており，現代の子どもにとっても親しみやすい歌詞の曲も存在する。

童謡は，大正期の作曲家たちが残したわらべうたでもなく唱歌でもない，子どものための歌として作った曲という点で非常に価値のあるものだと言える。

そこで次項では表１から７を利用し調査票を作成，実施し，鳥取市立保育所で大正期の童謡の中のどの曲がどの程度歌われているのかについて検証していくこととする。

２．鳥取市立保育所での童謡歌唱に関する質問紙調査

（１）調査方法

１）調査対象者の概要および調査の手続き

対象は，鳥取市立保育所 26 園中，３～５歳児クラスがある 24 園である（2014 年 8 月時点）。調査は，2016（平成 28）年 5 月から 6 月にかけて，24 園に調査票（24 部）を郵送した。昨年度 3 から 5 歳児クラスを担当していた保育士１名に回答してもらい，その後各園で返送用封筒に入れて返送してもらう，という手順で行った。調査への参加は，調査票への回答をもって同意を得たものとみなした。回収率は 7 割を見込んだ。質問項目としては，大正期の童謡がどの程度歌われているのかについて，保育所での歌唱活動の現状と大正期に活躍した作曲家の童謡で実践したものや知っているが実践していないものなど，大きく二つに分けて問うた。

２）倫理的配慮事項

調査票には，調査への協力は自由意志によるものであり，協力の有無による不利益は一切生じないこと，調査票の記載事項および集計結果については本研究の目的以外には使用しないこと，また調査結果は統計的に処理されるため個人は特定されないことについて説明し，調査実施の承諾を得た。

回収した調査票における個人情報の取り扱いについては守秘義務を遵守し，ID を付して管理し，データ処理を行った。

（２）結果

調査票の回収の結果，回答が得られたのは，24 園中 24 園（配布数に対する回収率 100%）であった。このうち統計解析に必要な質問項目に回答していた 23 園を本稿の分析対象とした（配布数に対する有効回収率 95.8%）。

図１は，回答者の保育者が昨年度の担当クラスで扱った童謡についての結果を示したものである。

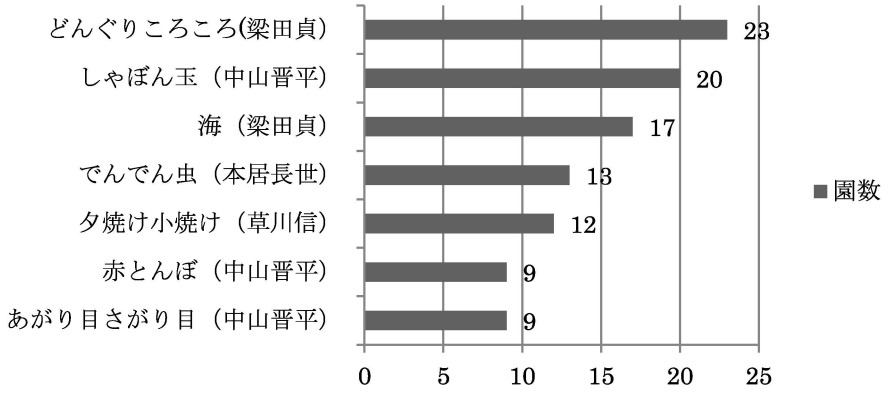

図１　昨年度のクラスで扱った曲

図１を見ると，梁田貞作曲の《どんぐりころころ》が 23 園中 23 園全ての園で実践されていることが分かる。次いで，中山晋平作曲の《しゃぼん玉》も 23 園中 20 園で，87%の園で歌われていることが分かる。一方で，《海》《でんでん虫》も比較的結果が高い。恐らく，小学校の共通教材でもある井上武士作曲，林柳波作詞《うみ》と，文部省唱歌《かたつむり》と誤解して回答していると推察される。

次の図２は，一昨年度までの担当クラスで実践したことがある童謡を尋ねた結果である。

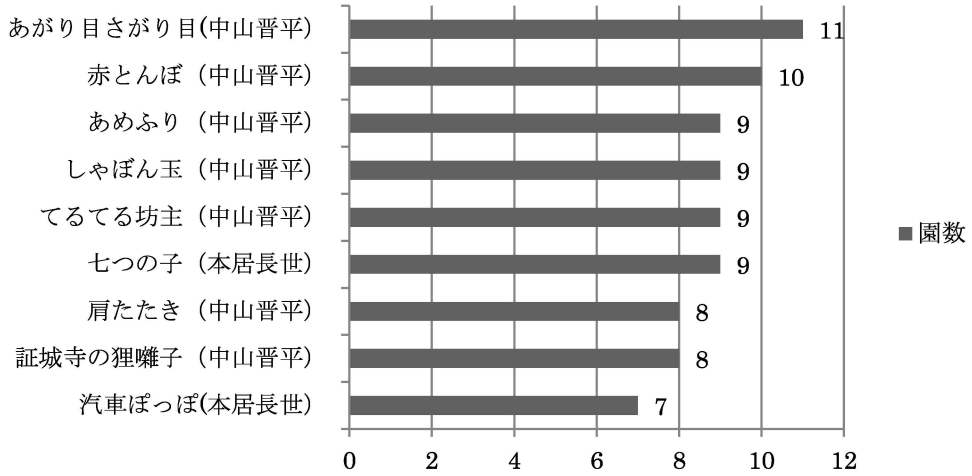

図２　一昨年度までのクラスで扱った曲

図２からは，一昨年度までのクラスで扱った曲の上位 9 曲中 7 曲もの童謡が中山晋平によって作曲されたものであることが分かる。

次の図３は，回答者の保育者が知っている（曲名だけで旋律が思い浮かぶ）が実践したことのない曲を尋ねた結果である。

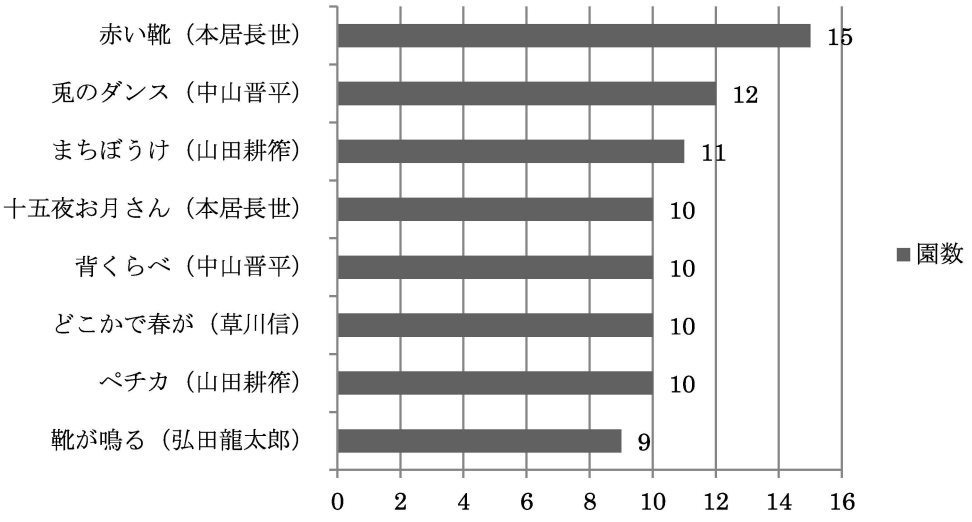

図３　知っている（曲名だけで旋律が思い浮かぶ）が実践したことはない曲

図３から，図１や図２のこれまでに扱ったことがある曲を尋ねた結果では挙がってこなかった曲が並んでいることが分かる。保育士自身が知っているからと言って実践するかどうかはまた別であることが言える。

最後の図４は，回答した保育者がこれまでに扱ったことはないがこれから扱ってみたい曲を尋ねた結果である。

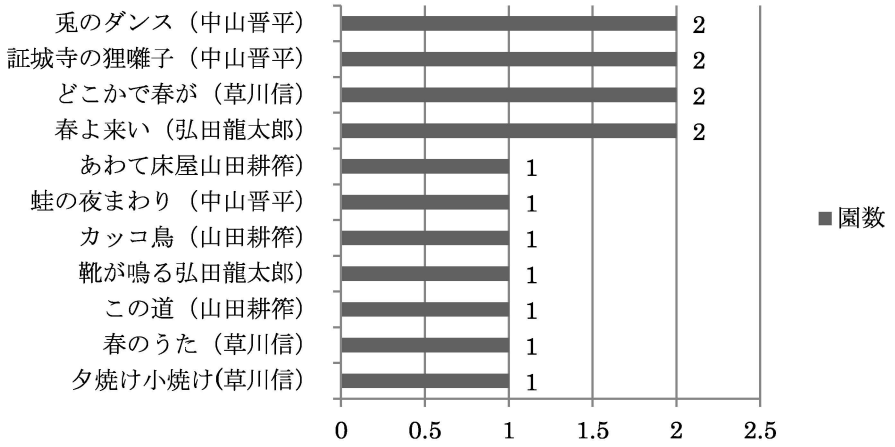

図４　今後扱ってみたい曲

図４から，各曲に対し，２園ないしは１園ということから，全体的に記入が少なかったということが分かる。知っている曲だとしてもこの結果を見ると，なかなか大正期の童謡を保育の中で実践することに積極的になりにくい現状があると言える。

しかし，そのような中でも，上位に入っている曲が《兎のダンス》と《証城寺の狸囃子》という明るい曲調でリズムが楽しい曲や，《どこかで春が》と《春よ来い》のように春という季節が関連している曲が入っていることが分かる。

「大正期の童謡をどのように歌い継いでいくかについて，お気付きの点やご意見がありましたら教えてくだ

さい」の自由記述の回答は，以下の通りである。

・指導者が大正期の歌をたくさん知ることで子どもに伝えることにつながると思うため，童謡を歌う研修会（楽しむ会）等で指導者育成を図ることも必要。
・季節に合わせて取り入れる。
・ふれあい遊びの中で取り入れていく。
・保育者自身がたくさんの曲にふれる必要性がある。
・音源や楽譜が古いものほど手に入りづらい。
・知っている人がその歌のよさ，楽しさを伝えてくれる機会があるといいい。
・自分が知っている曲は積極的に伝えていきたい。
・保育者自身が知っていることが必要。
・題名と作曲家だけでは分からない曲が多い。保育者自身が知ること，歌うことができないと歌い継いでいくことは難しい。
・《赤い靴》や《青い目の人形》等は歌詞の内容や表現を子どもにどう伝えればよいか迷う。
・社会的な背景の濃い曲（軍歌等）は今の子どもに伝えたい歌ではない。素朴な自然や日本の風土が感じられる曲，詩を大切にした曲を歌い継いでいけたらいいが難しいところ。
・童謡は大切にし，子どもに一つでも多く知ってもらいたい。
・保育者自身知らない曲が多いため，まず自分がふれて伝えていきたい。
・自分が知っていて子どもが歌い易い曲は日々の保育の中で伝えていきたい。
・知らない歌も多く，研修会や童謡を歌う会のようなものに出る機会があるとよい。
・歌詞が時代錯誤，ほとんど使わない言葉だったりして，取り入れにくいと感じる曲もある。
・単に「歌」というよりそこに「遊び」がつながり，身体表現や友だちとのやり取りが生まれるアイディアがあると歌い継いでいける曲もあるだろう。
・生活の中の何気ない場面でも口ずさめると思う。《靴が鳴る》等「おててつないで…」等子どもたちと歌える。「黄金虫は金持ちだ」，雨の降る様子を見ながら「雨降りお月さん」，シャボン玉遊びをしながら「シャボン玉とんだ」。知っている大人が楽しく口ずさむことが大切。
・知っていくことが大切。

19 園から回答があり，研修会の実施に関する回答（二重下線）が３園からあった。研修にはふれていないが，保育士の果たす役割に触れている回答（下線）については，８園からあった。これらのことから，童謡の継承において，保育士たちは自分たちの果たす役割の大きさを自覚しており，童謡に関する研修会の実施を求めていることも明らかとなった。

おわりに

梁田貞作曲の《どんぐりころころ》が 23 園中，23 園で歌われているという結果（図１）から，鳥取市立保育所において大正期の童謡の実践は行われていることが明らかになった。その半面，《どんぐりころころ》や中山晋平作曲の《しゃぼん玉》など，非常に限られた童謡しか実践されていないことも明らかになった（図１，２）。童謡に関する研修会の開催を求める声もあり，今後は，教員免許状更新講習をはじめとした研修等において，童謡の普及を図ると同時に，子どもの表現意欲を高める指導法の開発も進める必要がある。

＜謝辞＞

本研究の質問紙調査に快くご協力くださいました鳥取市立保育所の皆様に心よりお礼を申し上げます。

＜付記＞

本研究は，平成 28 年度ＣＯＣ＋「産官学連携共同研究」支援事業の助成を受けた。

本稿は 2016（平成 28）年度鳥取大学地域学部卒業論文「鳥取市内公立保育所における童謡の実践に関する研究」の第 1 章，第 2 章に基づいている。

本稿の一部は，日本音楽教育学会中国四国地区例会（2017 年 2 月，於：エリザベト音楽大学）において口頭発表した。また，卒業論文の第 3 章に関しては，『地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）』第 14 巻第 3 号，2018 年において発表する予定である。

村上沙樹（四国中央市福祉部こども課　寒川保育園）

鈴木慎一朗（鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース）

＜注＞

[1] 服部公一『童謡はどこへ消えた：子どもたちの音楽手帖』平凡社，2015 年，p.9。
[2] 小島美子「童謡」岸辺成雄編『音楽大辞典』第 4 巻，平凡社，1982 年，p.1621。
[3] 三瓶政一朗『日本童謡全集』音楽之友社，1974 年
[4] 文化庁編『親子で歌いつごう日本の歌百選：親から子，子から孫へ』東京書籍，2007 年。
[5] 音名はドイツ式に則っている。
[6] 細川周平・片山杜秀『日本の作曲家：近現代音楽人名辞典』日外アソシエーツ株式会社，2008 年，p. 710。
[7] 同上，p.677。
[8] 同上，p.564。
[9] 同上，p.239。
[10] 同上，pp.493-494。
[11] 同上，p.694。